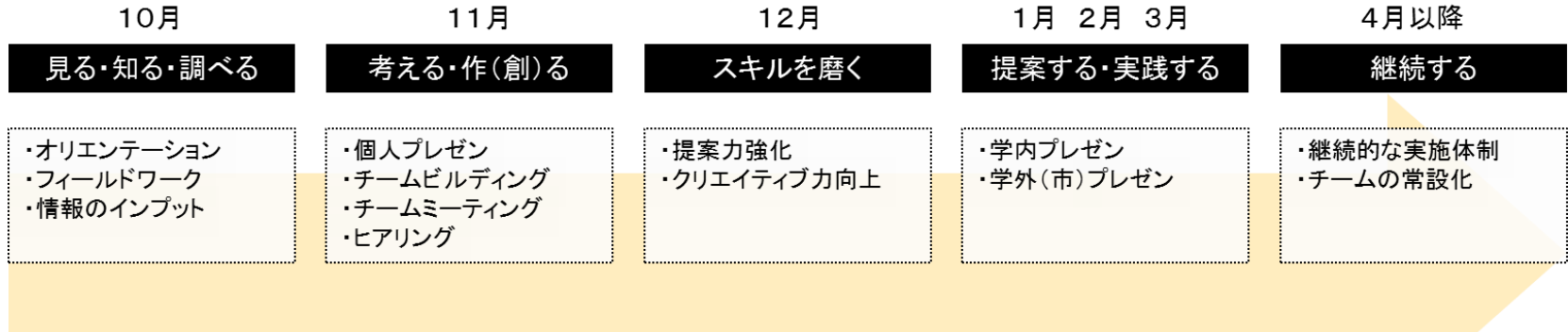


『宝の町』をブラッシュアップ!!

【提案プロジェクト概要】

◇プロジェクト提案に至るまで

呉高専において、講義として実施している「インキュベーションワーク」の一環として、平成27年10月から約半年間、学生19名が市役所職員（呉高専OB）とともに、フィールドワークやスキルアップなどを通して、宝町地区のブラッシュアップ策の提案に取り組んだものである。



【図/昨年度の取り組み】 ※今年度も継続して、提案プロジェクトの実践に向け取り組んでいる。

◇提案プロジェクト概要

(1)「海街キャンプ」

～みなとまち“くれ”を感じる最高の場所でこれまでにない魅力を発信～

船の行き交うおだやかな情景や造船風景など、みなとの魅力を見て感じる事ができる“大和波止場”に着目し、「呉の良さ、魅力をもっと知ってほしい」という思いから、学生たちが考えたプロジェクト。

「海街キャンプ」とは、これまでにない宿泊ツールとして、“大和波止場”でキャンプを行い、まちなかを自由に散策する、フィールドワーク的な体験イベントである。

キャンプを通し、1日を過ごすことによって、“普段見られないまちの姿を知ることができる”。

“様々な表情に変わる呉の海の景色を1日中楽しめる”

“海軍の歴史あふれるまちの中を自由に探索し、新しい宝町の魅力を発見することができる”

まさに地区の名前の通り、“宝の町で宝を発見”するプロジェクトとして提案する。

こうした、これまでにない体験型ツールを、実際に学生が主体的に企画・実施し、今後の新たな地区の魅力づくりの方法、手法に繋げていく予定である。



【図/キャンプ風景のイメージ】
芝生広場にテント張り、前面には、船の航行や造船、護衛艦の風景がひろがる。
1日を通して、様々な発見ができる。

(2)「参加型イルミネーション」

～夜の波止場にあたたかみのある空間をつくる～

“大和波止場”への昼と夜のフィールドワークを通して、学生たちが見て感じた、夜の空間に着目。

この波止場は、「恋人の聖地」としても認定されているが、夜は外灯も少なく真っ暗で、そのイメージとは程遠い。

こうしたイメージのある、夜の大和波止場を、学生が企画・制作したイルミネーションを用いて、誰でも参加できるライトアップイベントを行い、あたたかみのある空間を演出するプロジェクト。

イルミネーションの製作にも、学生ならではの視点で取り組みながら、夜の“大和波止場”のイメージアップに繋げる。



【写真/イルミネーションのイメージ】

(3)「展望フロアリノベーション」

～ポテンシャルを活かし、宝町の新たなスポットを創出～

呉中央栈橋ターミナルの展望フロアを、魅力ある空間に改装（リノベーション）し、新たな地区のスポットとするために、学生（若者）たちが考え、取り組むプロジェクトである。

当フロアは、年間約80万人が乗降する呉中央栈橋ターミナル内にあり、自由通路によってJR呉駅と結ばれ、呉市の玄関口として、優れたポテンシャルを有している。

一方で、フロア内の状況、来訪者の少なさなど、この場所の持つ魅力を活かした利用がされているとは言い難い。

こうした点から、展望フロアを魅力のある空間にリノベーションし、観光客、市民を問わず当地区に訪れた方々が、呉の風景をゆったりと眺め、滞在することができる新たな地区のスポットとしての活用を図る。

リノベーション後は、イベントスペースとして、ワークショップをはじめとした定期的なイベントを開催し、フロアの魅力を高めていく計画としている。



【図/リノベーションのイメージ】
くつろげる空間がコンセプト。
ここからの景色をゆったりと眺めてもらい、新たな地区のスポットにしたいと考えている。